

令和2年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [令和2年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

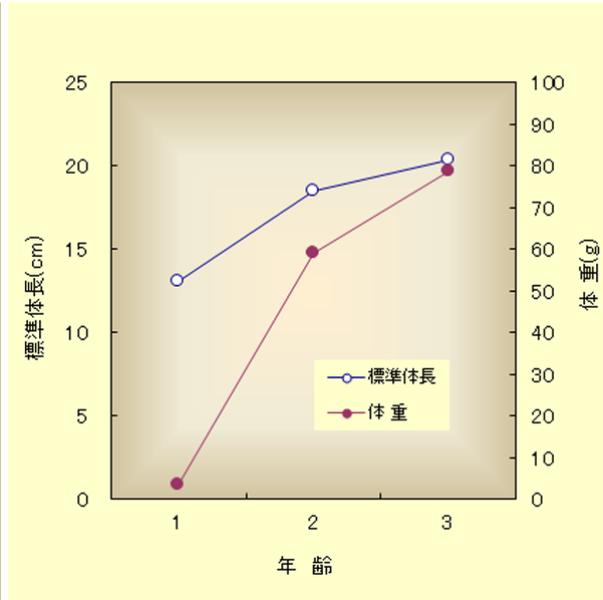
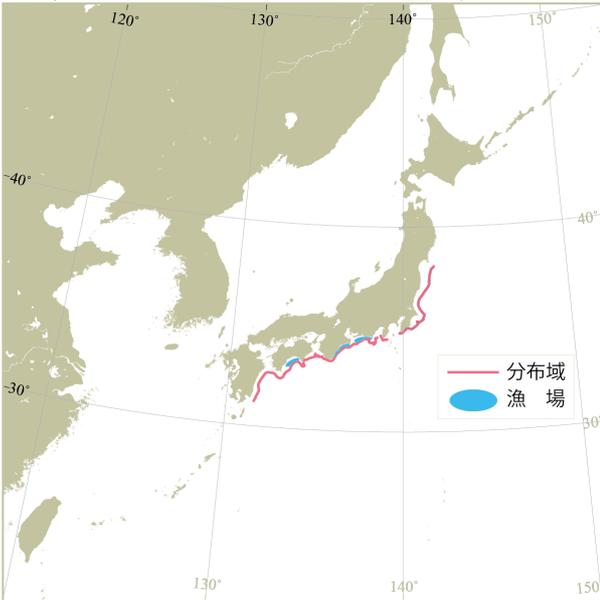
系群名 太平洋系群

担当水研 水産資源研究所



生物学的特性

寿命： 3歳
成熟開始年齢： 2歳 (100%)
産卵期・産卵場： 9月を除くほぼ周年、盛期は2月～3月および11月～12月、水深200m～300mの海底付近
食性： 幼稚魚期は主にカイアシ類、成長に伴い主にオキアミ類
捕食者： 中・大型の底魚類

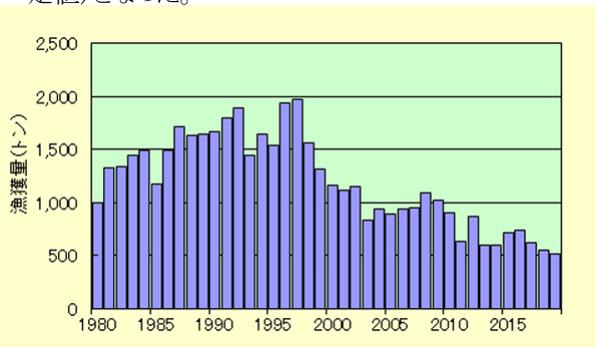


漁業の特徴

主な漁業は、1そうびき沖合底びき網漁業(1そうびき沖底)と愛知県の外海小型底びき網漁業であり、2そうびき沖合底びき網漁業でも漁獲される。主要漁場は太平洋中部海域(伊豆沖～熊野灘)では熊野灘、太平洋南部海域(紀州沖～薩南)では土佐沖で、漁獲水深は200m～300mである。

漁獲の動向

漁獲量は1980年～1990年代は1,000トン～2,000トンの水準で推移し、1997年には1,977トンと最高となった。その後は減少傾向で2000年代は1,000トン前後、2010年以降は1,000トン以下で推移し、2019年の漁獲量は516トン(暫定値)となった。

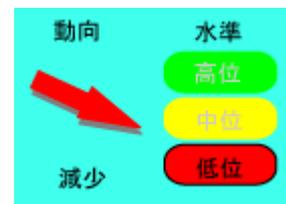
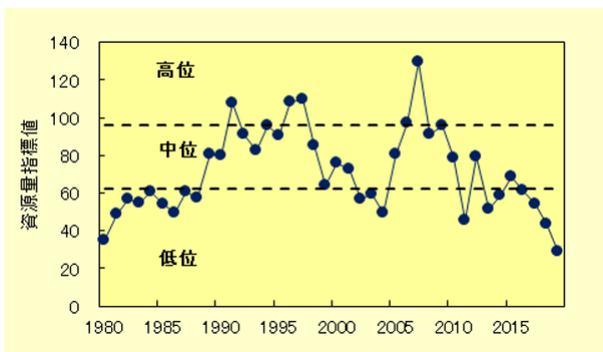


資源評価法

本系群の主要漁場のうち、近年において操業隻数が5隻と横ばいで推移している、熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数を系群全体の資源量指標値として資源の水準と動向を判断した。

資源状態

1980年～2019年の熊野灘における1そうびき沖底の資源密度指数を資源量指標値とし、最大値(2007年、129)と最小値(2019年、29)の間を3等分して水準を判断すると2019年は29で低位となった。動向は直近5年間(2015年～2019年)の推移から減少と判断した。



管理方策

資源水準及び資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲を行うことを管理方策とし、2021年ABCを算定した。

管理基準	Target/Limit	2021年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
0.7・Cave3-yr・0.705	Target	222	—	—
	Limit	277	—	—

- Limitは管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量、Targetは資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量
- $ABC_{target} = \alpha ABC_{limit}$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- ABC算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算した
- δ_1 は低位水準の推奨値0.7とした
- Ct にはCave3-yr(2017年～2019年の系群全体の漁獲量の平均値(561トン))を用いた
- $\gamma_1(0.705)$ は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算した。kは標準値の1.0とし、b(-12.4)とl(42.1)は資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間(2017～2019年))

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数を資源量指標値として資源の水準と動向を判断した

管理方策のまとめ

- 資源水準及び資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲を行うことを管理方策とし、2021年ABCを算定した
執筆者: 山下夕帆・真鍋明弘・安田十也

資源評価は毎年更新されます。